

7月26日(木)は私の誕生日。65歳となった。還暦を迎えてからでさえも、すでに5年の月日が経ったことになる。私にとってこの5年間は、これまでの人生で一番に充実していた時ではなかったかと、これまでを振り返り思うのである。(理由は、ここでは述べきれない。)

人生における充実感は、**いかに生きたか**がものさしとなり、自分自身の心の、偽りのない満足感によって味わうことができる最高の自分へのプレゼントだ。今、過ぎ去った日々を思うとき、「**生きた**」というのは適切でないかもしれない。多くのご縁に支えられ**生かされてきた**のだ、そう思う。

また、そう思える自分が、素直にうれしい。誕生日にはスイカかトウモロコシが食べたいところだが、この5年の間で前歯二本が差し歯となって、トウモロコシは包丁で実を削るしかないかな～。

この夏に読んでほしい

『 思 い 』

墨俣町

U・M

最近年齢とともに時間の過ぎてゆく速さが増しているように思えます。

昨年九月に母を亡くし、気が付くといつしか季節も移ろい、寒かった気候も太陽の日差しの厳しい暑い時期になっております。

先日、夜に妻が出産のため、子供たちを妻の実家の父母に見てもらっていましたところ、長男が朝起きたらこんなことを言ったそうです。

「婆ちゃん(9月に亡くなった母)の事忘れないから見てごね」と、

朝起きたらすぐに言ったそうなので、それを聞いて私はびっくりました。母が子供の夢に出てきてくれたのかな、と思いました。

長男はたまに、亡くなった母のことを「もっと居て欲しかったな」と漏らすことがあります。

そんな時、気づかされたのは、自分が我が子ほど母に対して思うことがあったかな、と気づくのです。何かの本にこんな記載がありました。

「人間が死ぬという事は人から忘れられた時だよ」と

長男の様に夢見るところまではいかないとしても、亡くなった父母のことをしっかりと思い返し、感謝して生活するとも、我が子にも将来は自分が今思っているような思いを抱いてくれるような親でありたいと、思いを新たにいたしました。

住職より一言

Mさんは若くして父親を亡くされ、続いて母親を亡くされ御苦労の多かった人生であったと思います。しかし今、ご自身で明るく優しい奥様と二人のお子様にお子様に囲まれて幸せな人生を歩んでいらっしゃると思います。お母様は三人目のお孫さんには会えなかったけれども、ご家族に囲まれた生前は、いつもとても幸せそうで、明るく愚痴をいう事もなく、前向きに生きる姿を私たちに示していただきました。光受寺勉強会での笑顔は、仲間たちも忘れることはありません。

Mさんへの「お念仏の相続」が、ご先祖からしっかりとされてきたことに対して、住職として、また同じ真宗門徒として誇りにも思い、また心から喜びたいと思っております。



生まれて間もない大貴君です。
「おんぴんぐです。」
ママに抱かれて機嫌です。

仏様との絆

入方

O・S

青葉を渡る風もすがすがしく初夏の日差しが目に染みるころになりました。

私は仏様に守っていただき今日まで元気に後を振り向かず前向きに生きてきました。友人を信じる気持ちがあれば誰とでも仲良くなることができ、それぞれの個性を生かした生活をしていくのが一番の幸せだと、私は思います。

そういう意味で、今いる多くの友達に感謝しています。

これからの人生も、友達との絆を仏様よりいただきながら、毎日元気で暮らしていきたいと思えます。

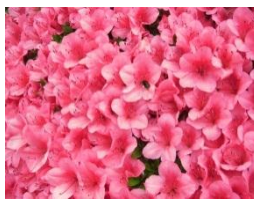
友達はみんな他人でも、みんないい人ばかりです。毎日楽しかったことを思い出して、嬉しくて、仏様の前で今日も一日守って下さってありがとう「私は先を急がず元気で暮らしたい」

仏様の絆、友達の絆、私は一日一日が元気で元気で楽しく暮らせる事をお願いしています。



祖父江 M・Tさん宅の畑

いばきあはれはあまのついでに



二ツ木 Y・M

あまのついでに

のどかな田園風景の中、花ショウブが満開でした。毎年仏さんのお花にと、花の時季が終わるまで、せっせと運んでくださいます。大きな花ひんにはちょうどベストな大きさです。心のこもったショウブ畑は、お浄土そのものに思えたことです。

何気ない日常を生きると、目に留まらないものも多くある。
ここ二ツ木のYさん邸では毎年こうして見事な花を咲かせていたのだ。
主の心までが読み取れてくる手入れのよさは、花弁の一片ひとひらにも伺い知ることができる。
自然は身近で感動を与えてくれる最たるものだと、改めて実感。乾いた自分の心を潤してくれたことだ。